

2006 年度事業報告

1. 会誌の編集発行

第 60 巻第 2 号～第 6 号, および第 61 巻第 1 号を編集し, 発行した. 報文 26 報, ノート 2 報, Short Paper 6 報, 総説 9 編, 解説 4 編, 資料 11 件, 塩シリーズ 2 件を掲載した. 前付け・後付け会告を含め, 総ページ数は 448 頁であった. 第 60 巻第 2 号から第 61 巻第 1 号において, 「地下かん水」, 「沿岸域の汚染—安全・安心をめざした技術—」, 「閉鎖性海域の汚濁の現状と今後の課題」, 「生き物・食品とミネラル」, 「製塩工業における高効率食塩結晶生産プロセスの開発」をテーマとする特集を企画編集した. また, 第 60 巻第 6 号は西日本支部の企画編集による「海水有効利用の今後の展望」特集号とした.

2. 年会総会・研究技術発表会の開催

平成 18 年 5 月 30 日(火)～31 日(水)の会期で, サポートホール高松 第 2 小ホールにおいて第 57 年会総会・研究技術発表会を開催した. 研究技術発表は口頭発表 30 件, ポスター発表 25 件であった. ポスター発表 25 件のすべてが口頭発表との重複発表であり, 17 件が 35 歳以下の発表者であった. 特別講演 1 件, 学術賞受賞講演 1 件があり, 約 120 名が参加した. また, 学術賞 1 件, 技術賞 1 件, 奨励賞 1 件および功労賞 2 件の表彰を行った.

3. 若手の集いの開催

平成 18 年 5 月 29 日(月)に第 6 回若手の集いを開催した. 見学会(讃岐塩業, 坂出市)および懇親会(HOTEL ニューフロンテア)の参加者はそれぞれ 37, 33 名であり, 評議員会出席者との交流もあり盛会となった.

4. 西日本支部の活動

1) 第 57 年会開催

年会実行委員会を組織し, 開催を行った.

2) 会誌特集号の企画, 編集

第 60 巻第 6 号を, 「海水有効利用の今後の展望」の特集号として, 企画, 編集した. また, 第 61 巻の特集に向け企画, 編集を進めた.

3) 平成 19 年度支部セミナー開催の準備

「水域のバイオマスと環境修復」をテーマとした支部セミナーを平成 19 年 9 月頃に開催する準備を進めた.

5. 研究会の活動

1) 電気透析および膜技術研究会

① 荷電膜コロキウム開催

第 34 回(平成 18 年 10 月 27 日, 東工大百年記念館, 講演: 3 件, 参加者: 21 名)および第 35 回(平成 19 年 3 月 23 日, 東工大百年記念館, 講演: 2 件, 参加者: 16 名)の 2 回実施した.

2) 海水環境構造物腐食防食研究会

- ① 第44回研究会の開催（財団法人塩事業センター海水総合研究所）
「製塩環境下における装置材料の腐食とその対策」をテーマに3件の講演を実施し、技術情報の提供と討論を行った。
- ② 第45回研究会の開催（青山学院大学相模原キャンパス）
アコースティック・エミッション(AE)を用いる局部腐食のモニタリングおよび損傷検出技術の実用化に向けた検討、SCCのメカニズムなど5件の講演を実施し、技術情報の提供と討論を行った。

3) 環境・生態系・生物資源研究会

- ① シンポジウムの開催（石巻専修大学）
平成18年12月9日(土)に「海際を科学する－環境と食の安全を求めて－」をテーマに6件の講演を実施し、技術情報の提供と討論を行った。
- ② 幹事会の開催（石巻専修大学）
平成18年12月9日(土)に、研究会の活動内容に関する討議を行った。

4) 塩と食の研究会

平成18年度は活動を休止した。

5) 分析科学研究会

- ① 化学分析技術講習会(基礎編)の開催
平成19年2月15日(木)にエスアイアイ・ナノテクノロジー(株)セミナー室において、「海塩試料中の微量成分分析に関する基礎知識と実際」をテーマとして講習会(基礎編)を実施した。参加者は12名であった。
- ② 見学会の開催
平成19年2月16日(金)に財団法人日本食品分析センター、JFEスチール株式会社東日本製鉄所の見学会を実施した。参加者は17名であった。
- ③ ミニシンポジウムの開催
平成19年3月13日(火)に財団法人塩事業センター会議室で「海水、塩、食品の分析に関する最近の進歩と話題」をテーマに4件の講演を実施し、技術情報の提供と討論が行われた。参加者は15名であった。
- ④ ニュースレターの配付
第2号、3号を発刊した。
- ⑤ 幹事会の開催
平成18年4月21日(金)に第4回幹事会（財団法人塩事業センター会議室）、平成18年12月8日(金)に第5回幹事会（財団法人塩事業センター会議室）を開催した。

6. 各種委員会の活動

1) 編集委員会

ノート、Short Paperの査読体制、インパクトファクター取得、総合索引について検討した。総合索引はこれまで10年ごとに総合索引を別冊で出していたが、今後は別冊を出さずPDFファイルにしてホームページ上に公開することを検討した。

2) 研究委員会

研究委員会の活動内容，役割等についての意見交換を行い，新たな事業・活動の企画立案，具体的な方策，研究会予算の配分方法などを検討した。

7. 事務改善

平成 18 年 8 月 1 日より，日本海水学会ホームページの URL (Uniform Resource Locator) を <http://www.swsj.org/> に変更した。新しい URL を通じて，日本海水学会の企画行事，投稿規定などの最新情報の提供などの会員サービスに努めるとともに，事務局における事務処理の簡素化，マニュアル化を前年度に引続き進めた。

8. 会員異動

個人会員：入会 14 名，退会 38 名，年度末現在 391 名

維持会員：入会 1 社 10 口，退会 4 社 8 口，年度末現在 53 社 443 口